

シンガポール発展の理由

序論

何故僕が今回の研究テーマに「シンガポール発展の理由」を選んだのかというと、家族旅行で5年前に行ったシンガポール旅行がきっかけでした。

僕の両親は旅行、特に海外が好きだったので、僕がまだ1歳のころから毎年のように海外旅行へ連れて行ってくれていました。

そして4年前、小学3年生の時にシンガポールに行ったとき、子供ながらに「シンガポールはすごい」と思いました。それと同時に、「なぜ東南アジアの、周りの国はあまり発展していない国が多いのに、シンガポールだけ発展しているのだろう」と思いました。

僕が考えたのは、「よほどシンガポールの人たちはコミュニケーションをとるのがうまくて、それによって発展してきたのだろう」と考えていました。

そして、そのコミュニケーション能力を背景にシンガポールは発展してきたのではないか。

このことについて、もっと詳しく調べてみたい。

これが、僕が今回研究テーマに「シンガポール発展の理由」を選んだ理由です。

本文

まず、シンガポール発展の歴史の基本情報をまとめました。

シンガポールは、1965年にマレーシアから分離し、当初は資源も富もない国でした。

そこで、初代首相リー・クアンユー氏は一党独裁の強力なリーダーシップを発揮し、今に続く経済発展の基盤を築きました。この政策の柱となったのは、以下の3つです。

1 外資誘致

シンガポールは当初、外資企業を排除することで国内企業の育成を図りました。しかし、国内マーケットの小ささゆえに経営が行き詰まったことから、方針を一転、外資企業の誘致に乗り出しました。シンガポール西部の7つの島を埋め立てて工業地帯を整備し、外資企業への優遇処置をとりました。その結果、産業の急速な工業化が進み、シンガポールの最初の経済成長が成し遂げられました。

その後も貿易拠点としての立地の良さと、シンガポールへ投資する企業や参入企業への税制面の優遇により、金融やITなどの外資企業が大量に流れ込みました。さらに、シンガポールに一定額以上投資する富裕層には永住権を与えるなど、富裕層の取り込みにも積極的に動きました。

その結果経済の流動性は増し、1980年から2010年まで、平均GDP成長率は7%以上と、安定した成長を遂げました。

2 エリート教育

これは、僕がシンガポールでホームステイをしていた中で、1番実感したことです。

僕のバディーや、バディーの弟を見ていて、教育熱心なことも経済発展の理由の1なのかな、と思いました。特に、僕のバディーの弟は僕が帰る前日に重要な試験があり、日曜日も含め毎日のように塾に行っていました。

シンガポールのエリート教育の詳しい説明をしていきます。

シンガポールは少ない人材を活用するため、徹底した実力主義で知られています。シンガポールにはPSLEという全国统一テストを小学校6年生(11または12歳)で受験します。これは彼らの人生を大きく左右する可能性のある重要な試験です。この結果によって、中学校やその後の進路まで大まかに決まってしまう。

(シンガポールでは、学区ではなく成績順に学校が決まります。)

その後、進学先の学力レベルに応じて GCE という学力調査を卒業時に受け、全てに合格した生徒のみが国立大学に進学することを許されます。その条件に満たなかった生徒は海外の大学に進学することも珍しくありません。そしてトップの成績で大学に進学した学生には、学費・海外留学無料+生活支援金が助成されるという優遇処置があり、徹底した実力主義をシステム化したプロセスといえます。

3 GLC の存在

GLC とは 'Government linked company' の略で、日本でいう国策会社のようなものです。テマセクホールディングスという政府の株式保有率 100% の持株会社が管理し、政府の方針に沿って企業戦略を策定していきます。GLC の幹部は先ほど紹介したエリート教育でトップレベルの成績を残した優秀層が就任します。しかし、就任後も厳しい実力主義が敷かれており、役職獲得への競争は厳しい上、経営不振の場合は事業売却、停止の可能性もあります。

以上が、シンガポールが急速に発展してきた理由です。

僕は、今回シンガポール派遣が決まった後から何度かシンガポールの発展の理由を調べましたが、やはりインターネット上で見る内容ではなく実際に現地に行き、直接話したり、話を聞いたりする中で新たに発見できることが多かったことに驚きました。

僕のバディーの弟は大切なテストがあったり、バディーは通常の学校に加えて語学センターというところで勉強をしており、このようなところで「エリート教育」を実感することが多くありました。

学校に行っても、すぐに勉強を始めている子もいて、シンガポールがどれだけ教育に力を入れているのかが分かりました。

また、僕のホストファザー、ホストマザーはそれぞれ UOB・CBS の上層部にて勤務していました。

UOB はもともとシンガポールに本社がある銀行なのですが、CBS は中国銀行なのでこれも外資融資に入っていると思います。

実際に、僕もホストマザーに CBS シンガポール本社に連れて行ってもらいましたが、CBS は外資系の会社なので、シンガポールでも 1, 2 を争う高さの建物でした。

そこから見るシンガポールは見たことのないほどの絶景でした。

今回、シンガポールで学んだことで、これからの実生活に生かせることはたくさんあると思うし、様々な形で今回の事を発信していきたいと考えています。